

次世代に向けた森林の利用に関する意識調査

—人々にとっての「身近な森林」—

Survey on Forest Management for the Next Generation

—“Familiar Forest” from People’s Viewpoints—

○林直樹（総合地球環境学研究所）、吉岡崇仁（京都大学フィールド科学教育研究センター）

Naoki HAYASHI (Research Institute for Humanity and Nature), Takahito YOSHIOKA (FSERC, Kyoto University)

1. はじめに

住まいからどのぐらいの距離に森林があれば、人々はそれを「身近」と感じるのか。人々と身近な森林の関係について考えるためには、この問いに対する答えが不可欠と考える。本稿では、次世代に向けた森林の利用に関する意識調査^{(1)(注1)}のデータを使用して、これを明らかにしたい。

2. 質問文と選択肢

あなたのお住まいからどれぐらいの距離に森林があれば「身近」と感じますか。実際にあるかどうかは別としてお考えください。あなたの感覚にもっとも近いと思うものにひとつだけ○をつけてください。

200m（徒歩3分）以内 1km（徒歩15分）以内 4km以内 10km未満 10km以上 わからない

3. 身近な森林

集計結果を表1に示す。表中の「10km～」とは、10km以上を選択した人の人数を全員（「わからない」などを除く）の人数で割ったもの(%)、「～10km」とは、10km以上か10km未満を選択した人の数を全員の人数で割ったものであり、「～4km」、「～1km」も同様の手順で求めたものである。

表1のすべての水系（上流・下流いずれも）について、「10km～」は、非常に少なく（最も高いところで7.7%）、「～10km」も半数には達しなかった。一方、「～1km」は、すべて半数以上であった（最も低いところで63.1%）。つまり、住まいから1km以内に森林があれば、大半の人は、「身近な森林がある」と答えることになるだろう。

4. 上流部と下流部の比較

「～4km」については、「半数に達しないところ」と「半数以上のところ」がある。「～4km」が半数以上のところは、いずれも下流部であった。ただし、下流であれば必ず半数以上ということではない。櫛田川水系、佐波川水系、利根川水系の下流部は、どちらも半数には達しなかった。また、「～4km」については、利根川水系以外のすべての水系において、上流部より下流部の方が高いことがわかった。

5. 提言

さらなる検証が必要であるが、現時点で、次の三つの提言を掲げたい。①住まいから4kmをこえる森林を「身近な森林」とみなすことには無理がある。②人々と「身近な森林」の関係について考えるなら、余裕をみて、住まいからの1km以下の森林を対象とすることが望ましい。

表1 人々にとっての「身近な森林」の条件（網かけは半数以上）

水系群の特徴	水系	上下流	10km～	～10km	～4km	～1km
森林率平均 75% 流路密度が低い	石狩川	上流	2.5	16.6	49.7	87.3
		下流	7.7	25.9	58.0	97.2
	釧路川	上流	0.7	8.7	31.5	74.5
		下流	6.1	29.8	64.9	98.5
森林率平均 84% 流路密度が高い	櫛田川	上流	3.0	10.2	22.8	70.1
		下流	1.3	14.3	40.3	88.3
	佐波川	上流	1.0	5.6	21.4	74.5
		下流	2.6	12.2	41.0	91.7
森林率平均 51% 農地率が高い	利根川	上流	2.5	16.0	49.7	92.0
		下流	1.4	14.1	47.9	90.1
	嘉瀬川	上流	0.5	5.3	20.9	63.1
		下流	7.0	21.7	61.2	95.3
森林率平均 39% 人口密度が非常に高い	荒川	上流	0.6	9.7	44.8	87.7
		下流	3.8	17.9	53.8	97.2
	庄内川	上流	1.6	8.8	28.0	78.6
		下流	5.7	26.7	62.9	100.0

6. おわりに

本稿では、「住まいからどのぐらいの距離に森林があれば、人々はそれを『身近』と感じるのか」について調べ、現時点では、「余裕をみて、住まいからの1km以下」という結果に達した。今後は、「水系群の特徴」との関係などについて明らかにしたい。また、河川・農地・公園について、同様の解析を予定している。

謝辞： 総合地球環境学研究所研究部の松川太一氏には、多大なるご協力を頂いた。記して深くお礼申し上げます。次第である。

【参考文献】

(1) 総合地球環境学研究所 研究プロジェクト「流域環境の質と環境意識の関係解明」編（2008）：『次世代に向けた森林の利用に関する意識調査』。

(注1) 2007年2月～3月に総合地球環境学研究所・研究プロジェクト「流域環境の質と環境意識の関係解明」が実施。回答者は満20～79歳の男女。調査方法は郵送法。有効回答数は2589（回収率40.5%）。対象水系の選定方法は次の通り。
①すべての一級水系について、人口密度、流路密度、森林率、農地率を求める。②四つの変数を用いて、クラスター分析を行い、いくつか（四つ）のクラスターに分類する（各クラスターの特徴については表1の「水系群の特徴」を参照）。③各クラスターから2水系ずつ選択。

キーワード：身近、森林、距離、意識調査